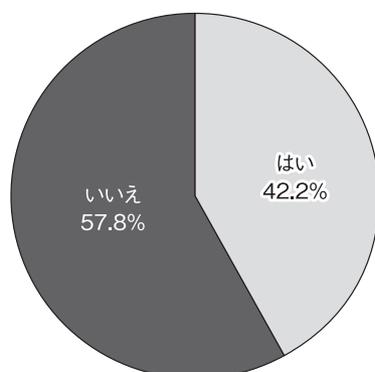


# 奨学金の受給希望度

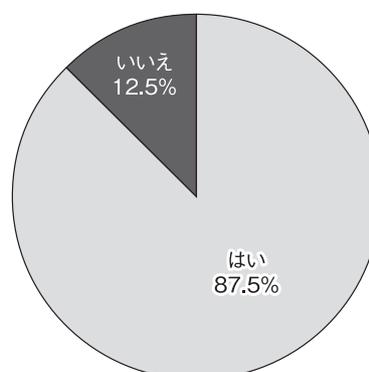
**問23-2** この奨学金を受けたい（引き続き受けたい）【日本学生支援機構の“貸与型”奨学金】

**問24-2** この奨学金を受けたい（引き続き受けたい）【本学独自の“給付型”奨学金】

【問23-2】



【問24-2】



【基数：対象者全員】

## 大学院生においては本学独自の“給付型”奨学金の受給希望が高い割合に

今回の調査において、この奨学金を「受けたい（引き続き受けたい）」と回答した大学院生は、『日本学生支援機構の“貸与型”奨学金』で42.2%、『本学独自の“給付型”奨学金』で87.5%という結果となり、『日本学生支援機構の“貸与型”奨学金』については、学部生への調査結果と同様に約4割となったが、『本学独自の“給付型”奨学金』になると学部生では50.8%であったのに対して、大学院生では87.5%と非常に高い割合を占めていた。

また、それぞれの奨学金に関する受給状況（問23-1、問24-1）と、この設問の回答結果をクロス集計して比較してみると、『日本学生支援機構の“貸与型”奨学金』を「受けている（受けたことがある）」と回答した大学院生のうち、「受けたい（引き続き受けたい）」とした大学院生は82.7%、「申請する機会を逃した」という大学院生については66.7%と高い割合を占めていた。

また、『本学独自の“給付型”奨学金』についても、「受けている（受けたことがある）」と回答した大学院生のうち、「受けたい（引き続き受けたい）」とした大学院生は99.5%、「申請したが採用されなかった」という大学院生については93.9%、そして「申請する機会を逃した」という大学院生については86.7%と高い割合を占めていた。

それぞれの奨学金制度において、既に奨学金を「受けている（受けたことがある）」大学院生については、奨学金を「受けたい（引き続き受けたい）」と考える大学院生の割合が非常に高いことが改めて浮き彫りとなり、特に『本学独自の“給付型”奨学金』においては、学部生以上に「受けたい（引き続き受けたい）」と考える大学院生が多いということがうかがえた。